

CAR No.34&35&36

Beyond

スーパーFJ

Albirex-RT

アルビレックス・レーシング・チーム

PRESS RELEASE

2011/ 12/11

2011 S-FJ 日本一決定戦

各シリーズの上位ランカーが集う 2011 スーパーFJ 日本一決定戦！
大類・福島・田中の3台体制で上位入賞を狙う！

12月9日～11日

鈴鹿サーキット国際レーシングコース

1 LAP=5.807km

ドライバー：田中正隆（ビヨンド・デジャヴ・アルビ RT・KK-S #34）

福島政也（アルビ GIA ビヨンド EDKKS デジャヴ #35）

大類康幸（アルビ RT 玉三郎 EDMotyGIA #36）

■12月9日（金） フリー走行

天候は晴れ。

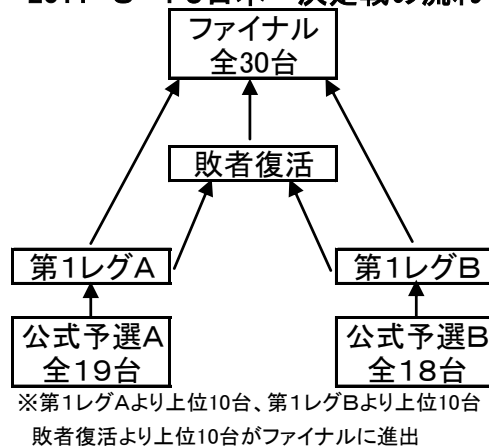
鈴鹿シリーズの4位入賞以来2ヶ月ぶりの走行となる大類選手は、感覚を取り戻すことに集中する。また、この2ヶ月の間に試したいことがいくつか見つけ、積極的にトライしていく。2本目からニュータイヤを投入すると、さっそくベストラップを更新する。

福島選手・田中選手はともに鈴鹿初走行。福島選手はマシンがコンバージョンされていたため、3本のフリー走行でどれだけ多く走れるかを目標

に走行開始。特にリヤ回りが新しくなったことでフィーリングが良くなったものの、タイムは伸びず、フリー走行後に監督とメカニックにアドバイスをもらい予選に備える。

田中選手はまずコースの雰囲気をつかみ、習熟することを念頭に置いて走行開始。富士シリーズに参戦していた時とはマシンが変わったものの、違和感なく走行できたが、タイムはなかなか伸びない。

2011 S-FJ 日本一決定戦の流れ



■12月10日（土） 予選

Aグループ福島選手は予選からニュータイヤを投入すると、前日のフリー走行より約2秒タイムが短縮。19台中15番手で予選を終える。しかし、まだドライバーの操作面において改善点があり、まだまだタイムアップの期待が持てる。

Bグループ大類選手は他のマシンに詰まらないよう、クリアラップをとることを優先にアタックを開始。予選を通じてほぼクリアラップで走れたことでトップタイムをマークしていたが、予選終了間際に0.062秒差でタイムを更新され、Bグループ2番手となる。

同じBグループの田中選手もニュータイヤに履き替えアタックを開始するが、コースの習熟が不十分でタイムが伸びず、最下位に沈む。

■12月10日（土） 第一レグ（6 L a p s）

天候：晴れ コース：ドライ

気温：10℃ 湿度：30% 路面温度：20℃

Aグループ15番手スタートの福島選手、スタートでエンジンストールしてしまい、一時は最後尾の19番手までポジションを落としてしまうが、1台ずつ確実に順位を上げていく。しかし、14位に終わり、第1レグでファイナル進出を決めることはできず、敗者復活戦に回る。

Bグループ2番手スタートの大類選手は、発進自体はうまく決めたものの2速へのシフトアップミスにより4番手に後退してしまう。しかしその後ホームストレートでオーバーテイク。3番手に浮上し2番手との差を徐々に縮めていくが、わずか6周の第1レグでは追いつくまでには至らず、Bグループ3位でゴールしファイナル進出決定。第1レグBグループのベストラップは大類選手がマークし、決勝へ期待の持てるレース内容だった。

同じくBグループ最後尾の18番手から決勝進出の条件となる10位以内を狙う田中選手だったが、思うようにペースが上がらず18番手。福島選手同様、敗者復活戦に回ることとなった。

■12月10日（土） 敗者復活戦（5 L a p s）

天候：くもり コース：ドライ

気温 12℃ 湿度 36% 路面温度 9℃

福島選手は7番グリッドからファイナル進出条件の10位以内を目指してレーススタート。またしてもスタートでエンジンストールしてしまうが、1周に1台のペースでパスしていき9位チェッカー。上位のペナルティにより8位に繰り上がり、ファイナルは28番

グリッドから迎えることとなる。

一方14番グリッドからスタートした田中選手は、スタートも無難に決め、富士シリーズで見せていた安定したレース運びを展開する。ファイナルラップには9番手までポジションアップを果たし、チェッカーまであとわずかというところまできたが、シケインでシフトダウンミス。結果は11位に終わり、ファイナル進出まであと順位1つ届かずに今シーズンのレースを終えた。

■12月11日（日） 決勝（10Laps）

天候：晴れ コース：ドライ

気温：12℃ 湿度：29%

Bグループ3位の大類選手は規定により6番グリッド、福島選手は28番グリッドからのスタートとなる。

大類選手はスタートの動き出しはよかったものの、1速から4速に入れてしまい直後に8番手に後退してしまう。しかしオープニングラップですぐさま1台抜き返し7番手に、2周目にはもう1台かわして6番手に浮上。3台による激しい5位争いが行われる。この間に上位4台がどんどんと差を広げ始める。

そして4周目。ペースで上回る大類選手は1コーナーで5番手に仕掛け、見事アウトからパスして5位に浮上。前の空いた大類選手は後続との距離を引き離し始める。しかし、6周終了時点でトップとは約16秒差。4番手とも約8秒離され、これ以上のポジションアップは難しいと思われた。

しかしその矢先、最終シケインで下位を走行していた2台が接触しコース上に停車。このクラッシュによりセーフティカーが導入される。これにより離されていた上位4台との差が一気になくなり、大類選手にとっては願ってもないチャンスが訪れる。

セーフティカーが解除されたのは10周目。レースはファイナルラップを残すのみとなり、この1周に勝負を賭ける。

しかし、大類選手はセーフティカー解除後のリスタートで上位の巧みな駆け引きにより一瞬出遅れてしまう。わずか1周では差を詰めることができないままそのまま5位でチェッカー。それでも、各シリーズランキング上位の猛者が集まるレースで価値のある入賞を果たした。

福島選手はこれまで2度失敗したスタートをうまく決めたが、3速にうまく入らず、1コーナーまでに最後尾まで落ちてしまう。しかし、オープニングラップ1コーナー後のダンロップコーナーで1台パス。バックストレートからシケインまで並んでうまくインを刺しさらに1台パス。3周目には130Rで1台パスするなど、他車のミスも重なり6周目には24番手まで順位を上げたところでセーフティカーが導入される。

福島選手はリスタート後も攻めの姿勢を見せ、スプーンで仕掛けるもオーバーテイクまではできずにそのまま24番手でチェッカー。他車のペナルティにより23位が正式結果となった。

田中選手コメント

初マシンで初サーキットということで、事前にこなしておくべきだったことをこなせていなかったのが敗因です。最後のレースでこういう結果になり、納得できていませんが、しっかりと受け止め精進していきたいと思います。チームの皆さんには1年間サポートしていただき本当にありがとうございました。

福島選手コメント

マシンが新しくなったもののレースウィークでしか練習ができないという状況の中、うまく対応できたと思います。細かいミスは見直していかなくてはいい勉強になりました。今回のレースを含め、ドライバーの思うような体制を整えることができなかったのが今年の反省点です。来年はそこを見直して練習していけばもっと上位に食い込んでいけるとと思います。最後に、アルビR Tの一人として今年1年間サポートしていただきありがとうございました。

大類選手コメント

スタートでミスしたのが響きました。たればの話をしては仕方ありませんが、スタートで4速に入れてなければ4位に入ることもできたかもしれません。

今年は特にシーズン終盤に速さを見せることができたので良かったです。経験不足な分、レースの駆け引きではまだまだ至らない点がありますが、もっとうまくなるはずです。走行ごとにトップとのタイム差が縮まっているので、来年は表彰台、シリーズチャンピオンを目指して戦えたらと思います。

今年1年アルビレックスR Tの一員として参戦させていただきありがとうございました。

中村監督コメント

フル参戦2年目で、入賞という目標が達成できました。日本一決定戦でも選手の成長が著しく、入賞できて良かったです。来年は更なる高みを目指して、チーム一丸となって頑張ります。今年1年応援頂き大変ありがとうございました。







 Nankai Plan Co.,Ltd.

